

＜発達障害の概要と特性の理解＞

認知発達に基づく支援の在り方ー成功体験を通して学ぶ子どもー

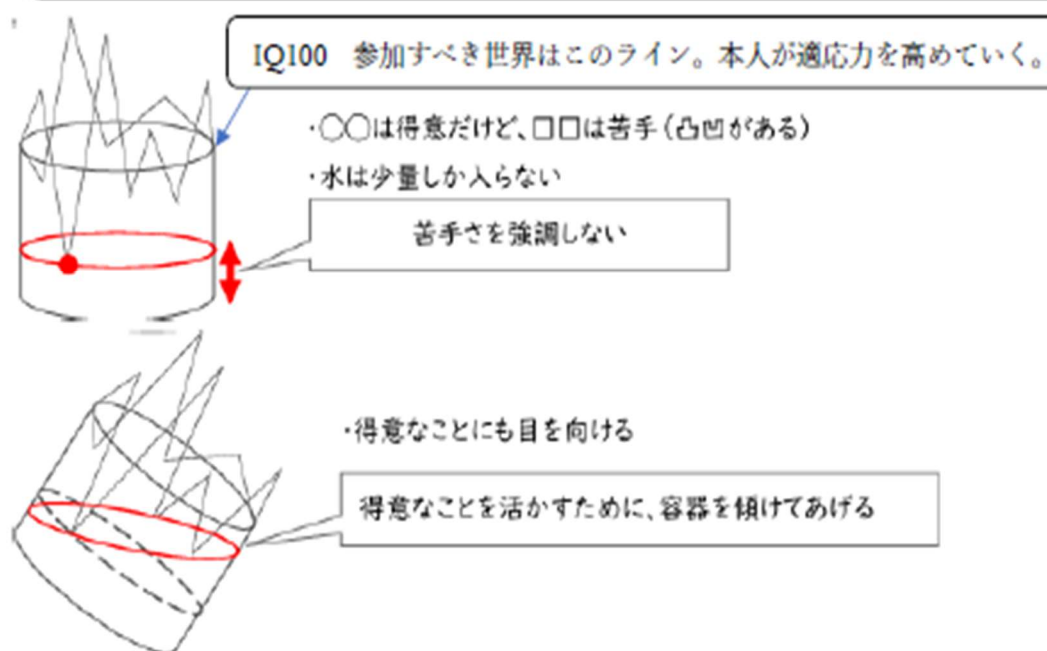
- ・発達障害は、学習上・生活上の大きな困難はあるが、知的障害ではない。
- ・学習や集団適応への配慮不足による不適応行動や行動問題は「情緒障害」なのか？
- ー問題は支援級の中では起こりにくいー

自閉症・情緒障害

- ①自閉症またはそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの。
- ②主として心理的な要因による選択性緘黙等があるもので、社会生活の適応が困難である程度のもの。

情緒障害とは、周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の意思ではコントロールできない状態をいう。

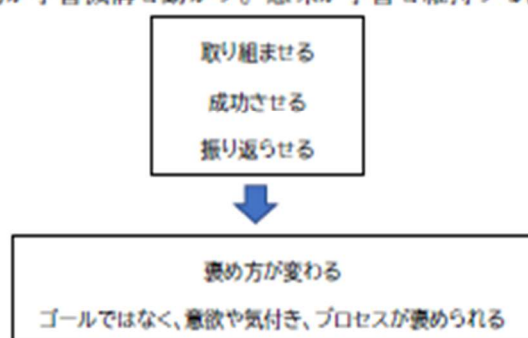
情緒障害の状態の現れ方や時期は様々、状況に合わない心身の状態を自分の意思ではコントロールできないことにより、学校生活や社会生活に適応できなくなる場合がある。児童生徒本人は困難さを感じているにもかかわらず、その困難さが行動として顕在化しないため、一見すると学校生活や社会生活に適応できているようにみえてしまう場合もある。



認知処理過程 (PASS 理論)



情動が学習機構を動かす。意味が学習を維持する。



発達最近接領域(ZPD: Zone of Proximal Development) ヴィゴツキー1978

子どもの現在の発達水準「精神内現象」と支援や仲間との協同、模倣などにより規定される可能的発達水準「精神間現象」との差を「発達の最近接領域と呼ぶ。



子どもの知的発達の水準を

①子どもが独力で問題解決できる発達水準

②単独では解決できないが、他者からの援助や共同によって解決できる発達水準

最初は、出来ることは非常に小さいが、他者とともにできる、道具とともにできるようになっていく、そして一人で出来るが増えていく。

それは、他者との関係の中で

①「学び」に向かう原動力として「子どもの思い」によって突き動かされていく

・成功体験、達成体験、成功している人を見る(有意味なモデル)

参加は理解に先行する。物事の理解の前に、大人の行為の真似や大人に助けられた社会的文化的行為のなぞりによって、文化的営みへの参加レベルを深めていく。